

グループ名 ・代表者名	福島老朽原発を考える会（フクロウの会） 青木 一政さん	助成金額	50万円
連絡先など	QZL00322@nifty.com		
助成のテーマ	放射性ごみ「リサイクル計画」の実態調査と環境汚染監視		

【調査研究の概要】 福島原発事故により生じた除染廃棄物や放射能汚染ごみの焼却が進んでいる。木質バイオマス発電も放射能汚染木を燃料とすれば放射能ごみ焼却と同じである。環境省は放射能ごみ焼却について「バグフィルターでセシウムは 99.99%回収できる」ので安全だと説明している。しかしバグフィルターでは PM2.5（微小粒子状物質）の捕捉能力は不十分で、放射能を含んだ微小粒子が周囲に拡散する懸念がある。これらの設備周辺や建設予定地での環境汚染・健康被害防止のためにこのプロジェクトをスタートさせた。

各地で放射能ごみ焼却に反対するグループと連携して周辺環境の汚染調査や文献調査などで反対運動の論拠となる知見やデータを集めて各地の運動に貢献した。

長野県飯山市では木質バイオマス発電計画に対して燃料木材不足の可能性、汚染木焼却による放射能再拡散の危険性などを指摘して世論喚起を図った。この結果、計画の白紙撤回を勝ち取ることに貢献できた。

宮城県大崎市では汚染稲わらなどの試験焼却にあたってリネン吸着法により大気中粉じんのセシウム濃度の監視を行った。その結果、焼却炉からのセシウム粉じん漏れを示唆するデータを採取でき、地元住民による焼却差止仮処分申し立ての証拠書類として提出し貢献することができた。

福島県田村市では市が進める木質バイオマス発電計画に対して地元住民による反対運動を技術面から支援している。

【調査研究の経過】

2018年4月2・3日 福島「ばらまき体感ツアー」を放射能ごみ焼却を考えるふくしま連絡会と共催。福島県田村市大越町の木質バイオマス発電予定地も回り、地元の「大越町の環境を守る会」と交流。

5月21日 大越町訪問。「大越町の環境を守る会」会員にリネン吸着法や土壌汚染調査方法を説明した。

6月5日 大越町バイオマス発電予定地周辺の12箇所で土壌汚染、リネン吸着法調査を実施。

8月19日 長野県飯山市にて講演（3月・5月に続き、3回目）。約200名参加。

8月26日 宮城県大崎市内3か所の焼却施設見学。試験焼却に備えリネン吸着法で監視することを提案。

11月30日 大越町での講演資料を基にブックレット「木質バイオマス発電について考える」を発行。2019年3月までに約600部頒布。

12月12日 信濃毎日新聞に「飯山市 木質バイオマス発電誘致撤回へ 環境への影響地元難色」との記事が掲載。

12月17日 大越町バイオマス発電について、資源エネルギー庁、環境省、復興庁、林野庁の関係担当者ヒアリング実施。

2019年2月17日 大崎市玉造クリーンセンターの汚染廃棄物試験焼却でセシウム漏れを示唆するデータが採れたため、試験焼却中止の仮処分にて住民側準備書面として提出。

【今後の展望など】 今後の課題として、対象施設周辺での簡便な形での風向データ収集、微小粒子の吸着に関するリネン吸着法の理論的解析などが挙げられる。

会計報告書の概要（金額単位：千円）			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費・滞在費	出張旅費5万/回×6回 三条市、一関市、福島県田村市等	567	160	400	7
資料費	資料購入等	0	0	0	0
印刷費	報告書印刷	143	0	100	43
検査費用	リネン吸着法調査 62.4万(1.3万/箇所×8か所×6回)、60万(土壌汚染分析0.5万/箇所×20か所×6回)	850	340	500	10
運営経費	通信費・消耗品等	54	0	0	54
合 計		1,614	500	1,000	114

参考文献（ウェブサイトや書籍、成果物など）

- ・大越町バイオマス発電に反対する市民の会『木質バイオマス発電を考える』2018年11月30日発行
<http://chikurin.org/wp/?p=5215>

放射性ごみ「リサイクル計画」 の実態調査と環境汚染監視

福島老朽原発を考える会（フクロウの会）

青木一政

除染廃棄物の「リサイクル」「減容化」が新たなビジネスに 「除染・廃棄物技術協議会」

除染・廃棄物技術協議会

Technical Advisory Council on Remediation and Waste Management

廃棄物関連WG[第6期] メンバー企業: 30社

コアメンバー

リーダー : DOWAエコシステム

サブリーダー : 大平洋セメント、JFEエンジニアリング

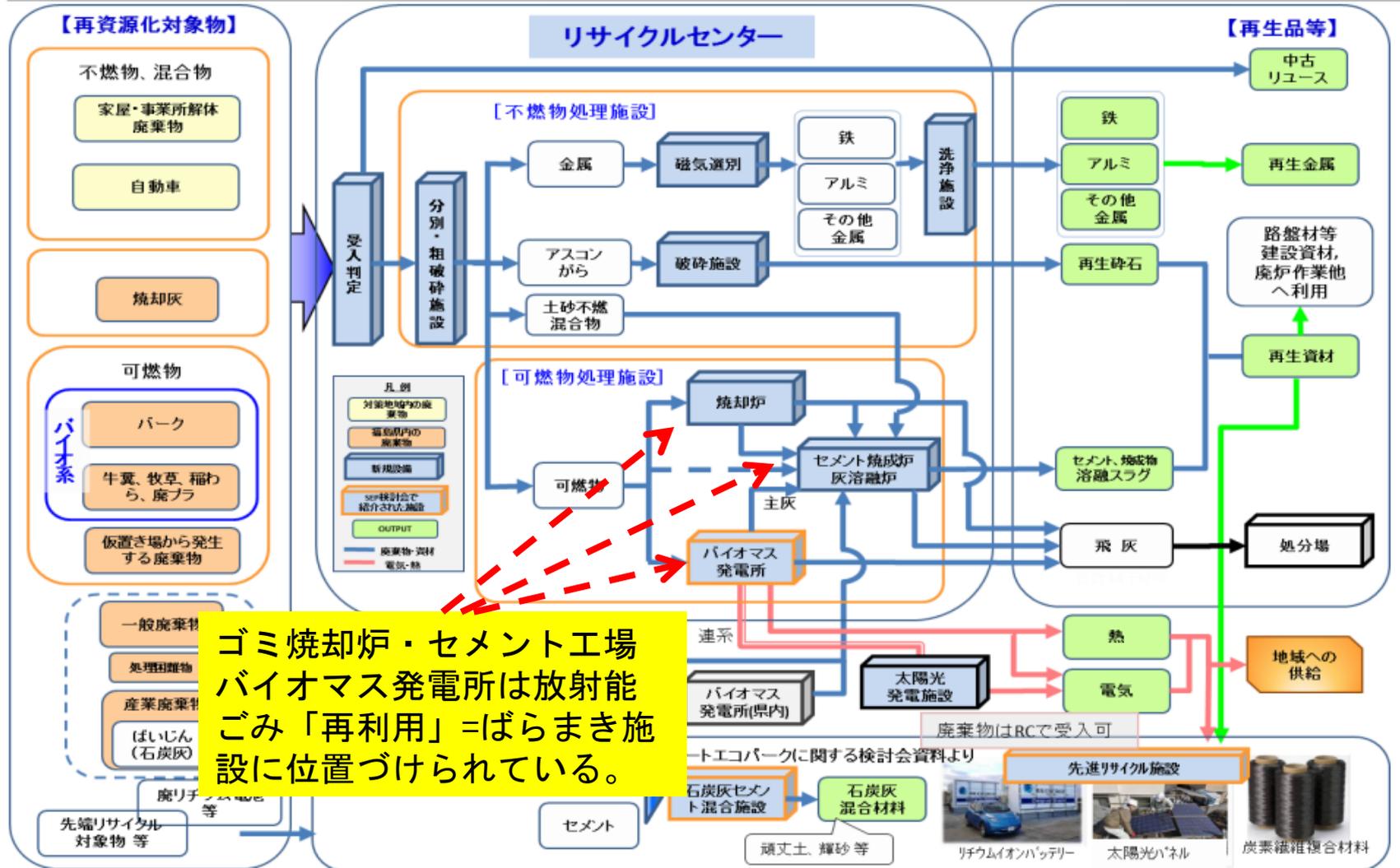
コアメンバ : クレハ環境、日本ガイシ、東京電力HD

<メンバー企業> 計24社(平成29年6月8日当時)

旭化成アドバンス、いであ、エヌエス環境、オオスミ、大林組、
佐藤工業、JFE環境、シービーエス、清水建設、新日鉄住
金エンジニアリング、竹中工務店、竹中土木、槌屋ティスコ、
東亜建設工業、東急建設、日揮、日本通運、日立製作所、
日立造船、ポニー工業、三菱マテリアル、りんかい日産建
設、鹿島建設、東京パワーテクノロジー

木質バイオマス発電も「放射能ごみ処理」の柱に

参考:リサイクルセンター構想全体像 (第4期WG ver)



環境省のお墨付き一汚染木をバイオマス発電で燃や す

福島県の関係者よりヒアリングを実施した際に、**地域再生の観点から、間伐などの森林施業と放射性物質の影響低減を一体的に実施すべき、周辺住民の安心、安全に繋げるための森林の除染による森林再生を進めるべき、との意見があった。**(20p)

今後の森林除染の在り方に関する当面の整理について

仮置き場の確保が課題となるため、可能な範囲で**早期に焼却して減容化し、仮置き場の必要容量を下げるなどの対応が重要であり、そのためには、焼却炉の設置が必要である。その際、地域の実情に応じ、一定の量と質の有機物を確保できるか等の集材性や一定の採算性が見込める場合には、焼却により発生する熱を発電に利用するバイオマス発電を活用することが考えられる。**(21p)

結論

再生可能エネルギーである**バイオマスを活用した発電**については、平成24年7月1日より、**固定価格買取制度**が開始され、バイオマスの調達価格は、**1 kWh あたり 13円～32円(税抜)**と設定されたところである。このうち、林地残材などの未利用木材の調達価格は、山間部における収集・運搬等に必要なコストを考慮して、1 kWh あたり 32 円に設定されているため、今後、F/S 調査を行い、その結果を踏まえて、**この制度を活用したバイオマス発電や除染から出たバイオマスの利用の検討が期待される。**

(22p)

放射能ごみ焼却・熱処理問題のキーポイント

(助成申請資料より)

バグフィルター神話と微小粒子問題

すべての施設が集じん設備としてバグフィルターを使用。住民への説明会では安全性の根拠として除じん率99.9%と説明している。

全体像が見えにくい

所管省庁や推進主体が見えにくい。一つの問題として認識しにくい。

各地で活動は分散して孤立

各地の運動の連携が急務

本プロジェクトの狙い（助成申請資料より）

- 各地で活動する市民グループ・個人と連携して、放射能再拡散による環境汚染、健康被害を防止する。
- 放射能ごみ「リサイクル」＝ばら撒きの実態の全体像を明らかにする。
- 主に焼却・熱処理・木質バイオマス発電に的を絞る問題点を明らかにする。
- 大気中粉じんや土壌などを中心に周辺環境汚染監視を行う。
- 設備や運用の実態調査と問題点の抽出を行う。
- 放射性物質を含むPM2.5の健康影響について調査する。
- 研究成果をもとにリーフレット作成、学習会の開催などを通じ、各地の運動に貢献する。
- 各地で活動するグループ・個人のネットワークを作り、情報共有、共同行動のプラットフォームを作る。

実際の活動状況 課題と経緯

各地の運動との連携・周辺の汚染監視

分類	対象	地域主体	課題と経緯
木質バイオマス発電	新潟県三条市グリーンサーマル(株) (稼働中)	みらいの生活を考える会・三条	稼働前後での大気中粉じんのセシウム濃度監視 薪ストーブ灰・発電所飛灰セシウム濃度測定。 GS社訪問、GS社社長と面談。
	長野県飯山市グリーンサーマル(株) (計画中)	バイオマス発電施設検討委員会	木質バイオマス発電の問題点の明確化。地域住民への啓発。
	福島県田村市田村バイオマスエナジー(株) (着工中)	大越町の環境を守る会	木質バイオマス発電の問題点を明確化。地域住民への啓発。 情報開示と設備の問題点の解明。
	長野県東御市信州ウッドパワー(株) (着工中)	木質バイオマス発電を学ぶ会 2019/4～	木質バイオマス発電の問題点を明確化。地域住民への啓発。
放射能汚染廃棄物(農林業系)焼却	宮城県大崎市ごみ焼却施設(3か所) (試験焼却)	大崎耕土を放射能汚染させない連絡会	放射能ごみ焼却の問題点の明確化。地域住民への啓発。 試験焼却時の大気中粉じんセシウム濃度監視。 試験焼却差し止め仮処分支援。
	宮城県仙南地域ごみ焼却施設(本格焼却)	放射能汚染廃棄物の焼却に反対する仙南の会	放射能ごみ焼却の問題点の明確化。地域住民への啓発。 本格焼却時の大気中粉じんセシウム濃度監視。

各地の運動との連携・周辺の汚染監視

分類	対象	地域主体	課題と経緯
木質バイオマス発電	新潟県三条市グリーンサーマル(株) (稼働中)	みらいの生活を考える会・三条	稼働前後での大気中粉じんのセシウム濃度監視 薪ストーブ灰・発電所飛灰セシウム濃度測定。 GS社訪問、GS社社長と面談。
	長野県飯山市グリーンサーマル(株) (計画中)	バイオマス発電施設検討委員会	木質バイオマス発電の問題点の明確化。地域住民への啓発。
	福島県田村市田村バイオマスエナジー(株) (着工中)	大越町の環境を守る会	木質バイオマス発電の問題点を明確化。地域住民への啓発。 情報開示請求による設備の問題点の解明。
	長野県東御市信州ウッドパワー(株) (着工中)	木質バイオマス発電を学ぶ会 2019/4～	木質バイオマス発電の問題点を明確化。地域住民への啓発。
放射能汚染廃棄物(農林業系)焼却	宮城県大崎市ごみ焼却施設(3か所)(試験焼却)	大崎耕土を放射能汚染させない連絡会	放射能ごみ焼却の問題点の明確化。地域住民への啓発。 試験焼却時の大気中粉じんセシウム濃度監視。 試験焼却差し止め仮処分支援。
	宮城県仙南地域ごみ焼却施設(本格焼却)	放射能汚染廃棄物の焼却に反対する仙南の会	放射能ごみ焼却の問題点の明確化。地域住民への啓発。 本格焼却時の大気中粉じんセシウム濃度監視。

調査・研究・連携の課題と経緯

課題	概略の経過
放射能ごみリサイクル全体像と問題点調査	<ul style="list-style-type: none"> ●「ばらまき体感ツアー」の開催(2回)。富岡町の仮設焼却炉、汚染灰最終処分場、JAEA遠隔技術開発センター、国立環境研福島支部で研究者と面談。
PM2.5に着目した健康影響についての調査	<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物資源循環学会参加(2018/9) ●文献調査(PM2.5の健康影響、放射性エアロゾル、微小粒子状物質健康影響評価検討会報告書等)
各地域での運動を繋げるプラットフォーム造りと宣伝ツール作成	<ul style="list-style-type: none"> ●学習会in郡山「放射性ばいじんの危険性」開催。 ●ブックレット「木質バイオマス発電について考える」発行。 ●学習交流集会in郡山「止めよう！放射能のばら撒き」開催。 ●同報告集発行。



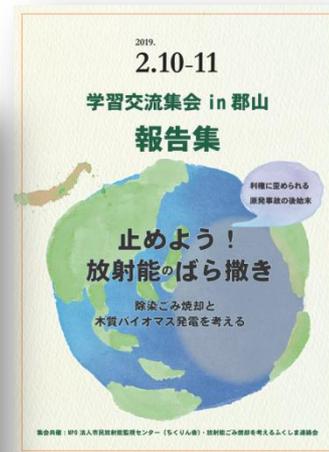
国立環境研
福島市支所にて



学習交流集会in郡山



JAEA遠隔技術開発センター



活動成果①
長野県飯山市長が木質バイオマス発電計画
撤回を表明

間伐材などの木質バイオマス活用 飯山市 発電施設誘致撤回へ

飯山市が市有地の戸狩工業団地への民間木質バイオマス(生物資源)発電施設誘致を撤回する方針を固めたことが11日、分かった。足立正則市長は12日開会する市議会定例会で表明する見通し。生活環境への影響から地元区長会が受け入れに難色を示していた。

環境への影響 地元難色

木質バイオマス発電などを手掛けるグリーン・サマー(東京)が、市内や周辺の山林から出る間伐材などを使って発電し、売電する計画。工業団地の一部区画(2・3号)内に発電施設などを建設。最大出力約7千瓩で、2020年度の操業を目指していた。

環境への影響 地元難色
求め、区長会は「生活環境への心配があり、区長会として賛同致しかねる」と回答した。市長は地域の意向を踏まえ、誘致できないと判断したとみられる。

発電には1日1千トの水が必要とされ、近隣住民から地下水の枯渇といった環境面の影響を懸念し、計画への疑問の声が出ていた。

足立市長は、2期目の任期満了直前の9月の市議会一般質問で、計画は重要との認識を示しつつ、「地域の賛同が得られなければ、やらない」と答弁。10月の市長選で3選した足立市長は11月中旬、地元常盤地区区長会に意見を

信濃毎日新聞
12月12日

放射能の危険性・バイオマス発電の問題点について講演(3回)

●2018年3月に1回目学習会。地元住民20名が参加。

●放射能の危険性、バイオマス発電の問題点について講演。

●2018年5月、より広い地域住民を集めて講演会を開催。約80名参加。地形と風向から粉じんの拡散予測などを説明。

●講演内容をもとに議会での質問。バイオマス発電業者の説明会で質問。

●2018年8月に講演会第3回目開催。約200人が参加。

●バイオマス発電反対を掲げる江沢きしお市議が市長選に立候補するも惜敗(得票率48%)。

●勝利した足立正則市長が12月議会冒頭で、市民の反対が強い木質バイオマス発電誘致計画は撤回すると表明。

●住民グループ自ら森林賦存量と間伐材産出量調査、地下水枯渇について見識を持つ専門家発掘などをすすめ、幅広い運動を盛り上げたことが勝利につながった。



今、全国各地でバイオマス発電所建設計画が多く噴出しています。合わせて懸念、疑問の声も多く聞かれます。私たちも例外ではありませんでした。住環境に影響がないのか、正確な情報、知識が必要になり、1年半にわたりちくりん舎さんにお願ひし勉強会を開催し、学んできました。又、市会議員をはじめ、多くの方々の力をお借りし、市は「誘致撤回」の判断となり安堵しております。ご協力をいただいた皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。安心して生活ができます。

バイオマス発電施設検討委員会 委員長 徳永達秀

誘致撤回の判断を評価し歓迎します。市当局の誘致発表から1年半。市当局や進出希望企業に翻弄されながらも、私心なく真剣に地域を思い、学び、行動された多くの方々に感謝します。私も10月の市長選に際し「環境を守る、地下水を守る、景観を守る。そのため白紙撤回する」と公約。選挙には負けましたが、私への6,304票(得票率48%)はこれで生きました。

前飯山市議会議員 江沢岸生

活動成果②

宮城県大崎市の汚染廃棄物試験焼却でセシウム漏れを示唆するデータを採取。

宮城県での農林業系汚染廃棄物焼却を巡る動き

年月	動き
2016年末	宮城県村井県知事が農林業系汚染廃棄物（汚染稲わら、牧草、楯木など）の一斉焼却方針を示す。
2016年12月	宮城県市長村長会議で一部市町村からの反対で、年明けからの一斉焼却を「見送り」。
2017年4月	「放射能汚染廃棄物『一斉焼却』に反対する宮城県連絡会」結成。結成集会にてスピーチを実施。
2017年～2018年	県による個別市町村の切り崩し。仙南、黒川の2広域行政事務組合が試験焼却を開始、石巻市、大崎市が10月から試験焼却を開始と発表。
2018年6月	宮城県栗原市で講演（約80名）。リネン吸着法についても解説。
2018年8月	石巻市で講演（約60名）、大崎市で講演（約30名）。大崎市3か所の焼却施設での試験焼却時のリネン吸着法による監視の相談。
2018年11月	仙南地域（大河原町）で講演（約80名）、本格焼却に備えてリネン吸着法による監視の相談。



汚染廃棄物の焼却を巡り、飛灰の危険性を学んだ講演会

汚染廃焼却中止を
石巻住民団体が講演会

東京電力福島第1原発事故で生じた国の基準（1立方メートル当たり8000ベクレル）以下の汚染廃棄物を巡り、石巻市の住民団体「放射能汚染廃棄物の焼却処分反対する石巻地域の会」（松浦健太郎代表）は25日、同市北村の遊楽館で講演会を開いた。

市が今秋計画する試験焼却の中止を目指して企画。NPO法人市民放射能監視センター「ちくりん舎」（東京）の青木一政副理事長が講師を務め、約50人が参加した。

青木氏は原発事故に見舞われた福島県内の現状を調査結果を交えて説明。汚染廃棄物の焼却の危険性として「細かい灰の粒子は空気に浮遊して滞留するものもある。吸い込むと肺の奥まで侵入し、被ばくし続けることになる」と指摘した。

松浦代表は講演会の冒頭にあいさつし、「試験焼却を中止し、隔離保管するよう訴えてきた。市の検討は浅く、議論はし尽きられてない。この問題を勉強し、市を迫っていく」と強調した。

リネン吸着法による調査—具体的な進め方を地元グループと検討 (2018.10.6)

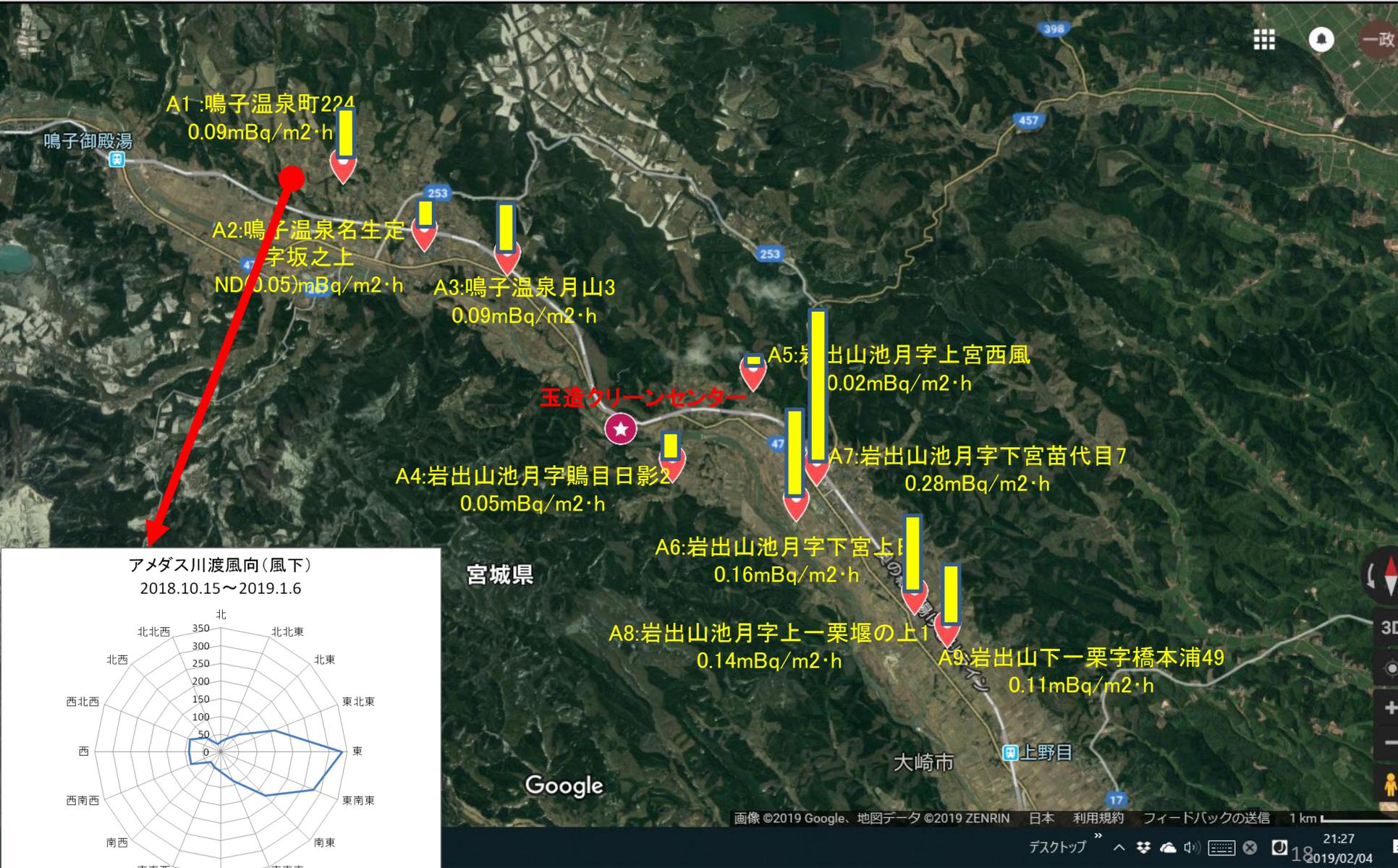


- 大崎市内3か所での試験焼却2018.10.15～2019.3.15まで。5日間/月、汚染廃を混焼して6クール実施。
- 前半3クール(低濃度)、後半3クール(高濃度)での監視を行い前後半の比較を行う。
- アメダスによる風向データとの比較。

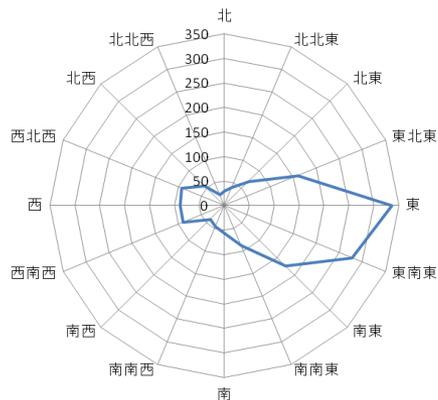
前半3か月調査でセシウム漏れを示唆する結果（玉造CC）

70697.14

ヘルプ(H)



アメダス川渡風向(風下)
2018.10.15~2019.1.6



試験焼却差し止め仮処分申立に証拠書面として提出

【債務者反論の中心】
リネン布に吸着された放射性セシウムの由来について、土壌からの再飛散、花粉や孢子などバイオエアロゾルの可能性を挙げ、焼却炉に由来すると特定できない。

【債権者再反論】
焼却炉以外からの由来による放射性セシウムの付着を否定しているわけではない。それらはバックグラウンドとして付着していると考えられる。我々の主張はバックグラウンドの存在を前提として、風向および地形との関係を考えれば、今回の観測結果が玉造クリーンセンターを固定発生源として想定することが妥当であると主張。

【裁判所決定】
債務者側主張をそのまま踏襲。風向と地形による影響についての債権者主張は無視。

「仮に本件施設に由来するものであるとしても、リネンに付着したばい塵の空間線量の値に照らすと、いまだ周辺住民の被ばく量が1mSv/年を超えないことが一応認められる」と主張。



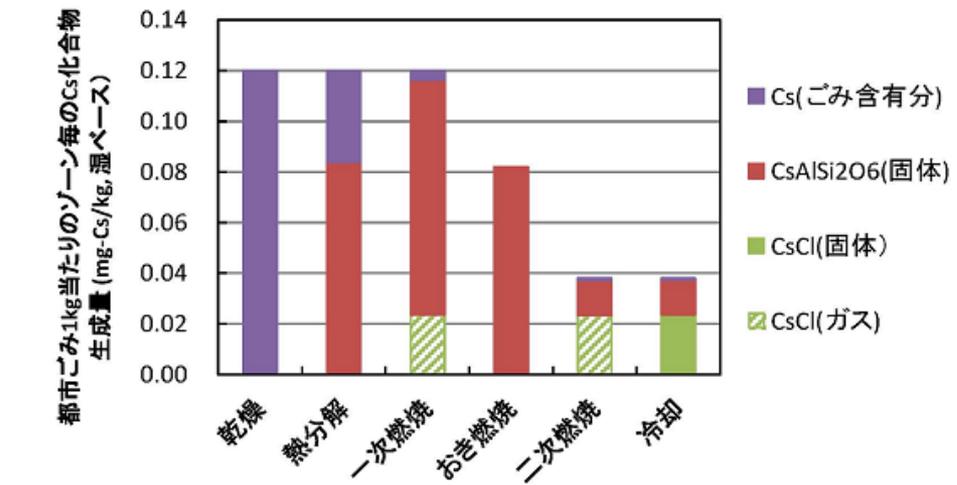
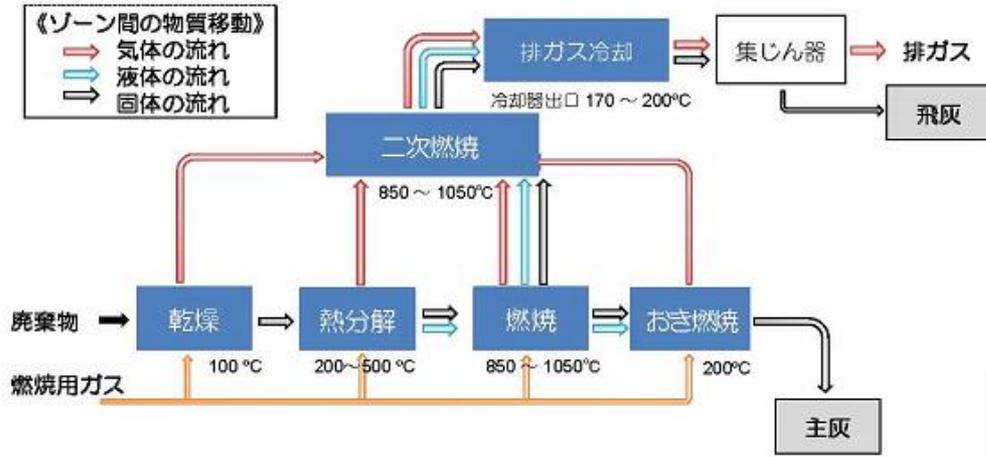
2019年2月27日 毎日新聞宮城版より

➡ 原告は即時抗告、風向きとの関係で立証をさらに強化すべく再度調査を継続中。

活動成果③

放射性微小ばいじん（放射性エアロゾル）
の危険性についての知見の進展。

セシウムはばいじん粒子の表面に付着している



- 一時燃焼、二次燃焼で一部はCsCl(ガス)となる。
- 排ガス冷却でCsCl(ガス)が冷却、凝縮されてCsCl(固体)となる。



大迫政浩(国環研)放射能汚染ジョイントセミナーH25.2.18資料より

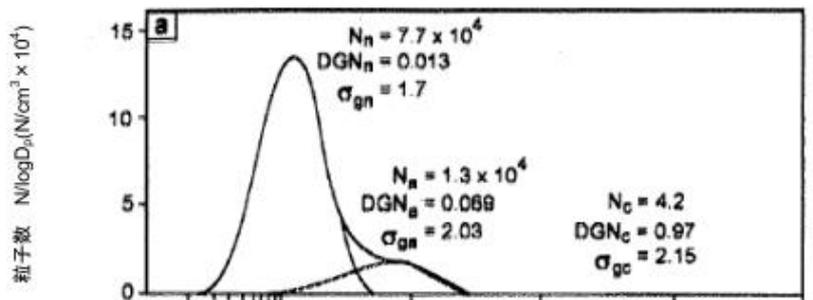
- この凝縮の過程で粒子化したCsClが他の飛灰中物質に付着する。

燃烧炉(ストーカ炉)におけるマルチゾーン平衡計算から推測したセシウム化合物の形態

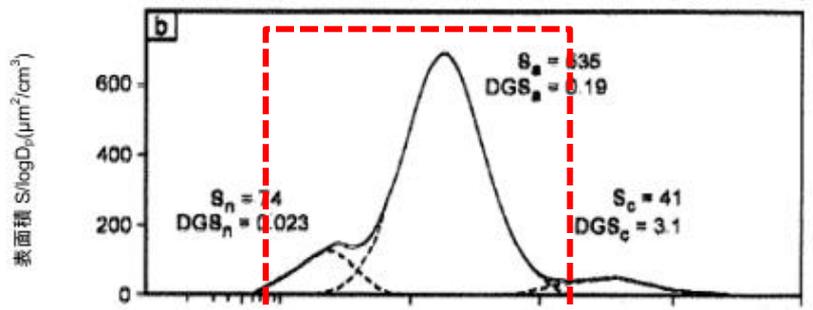
<http://www.nies.go.jp/kanko/news/34/34-2/34-2-03.html> 倉持秀敏他(国環研)他 2015年国環研ニュース34巻2号

微小粒子は表面積で考えなければならない

粒子数
での分布



表面積
での分布



体積
での分布

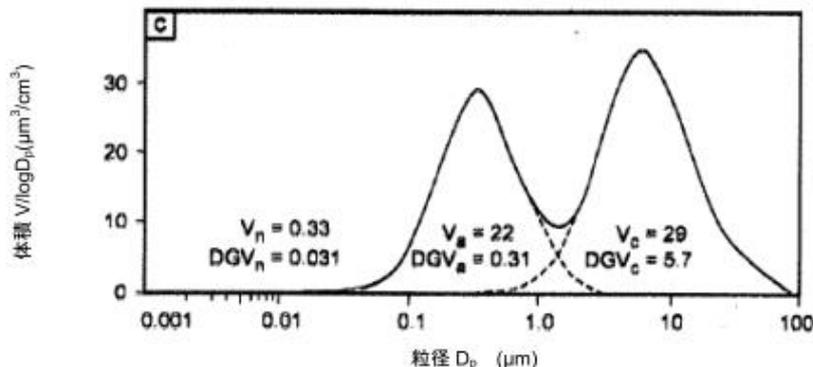


図 2.1.3 粒子状物質の粒子数・表面積濃度・体積（質量）濃度分布 (Whitby (1978))

● 粒径別の表面積の分布では粒径 0.01~1.0μmの粒子が圧倒的に多い。



● 表面積で考えるとセシウム的大部分は1.0μm以下の粒子に付着していることになる。

● バグフィルターでは2.5μ程度以下の微小粒子の捕捉は不十分。



1.0μm以下の微小粒子を放出するのは大問題。

活動状況④

福島県田村市バイオマス発電計画における情報開示と「HEPAフィルター設置」の重大疑惑解明

徹底的な情報隠しで進められる田村市 バイオマス発電計画

バイオマス燃料の使用計画書

1.木質バイオマス利用量等（チップの比重 として計算）

燃料区分等	利用量 (t/年)	利用量 (m ³ /年)
木質 バイオマス 利用量		
バイオマス 以外の燃料		
總計		

2.年度別木質バイオマス利用計画

年度 (平成)	バイオマス種類	仕入量 (t)	仕入事業者	備考

3.当該申請設備において使用するバイオマス燃料の使用予定数量、調達方法は次のとおりです。

燃料名	年間利用 予定数量 (t/年)	調達先 (会社名等)	木材・木質 チップ 集荷地域	木材の 水分率 (%)	予定購入価格 (円/t)

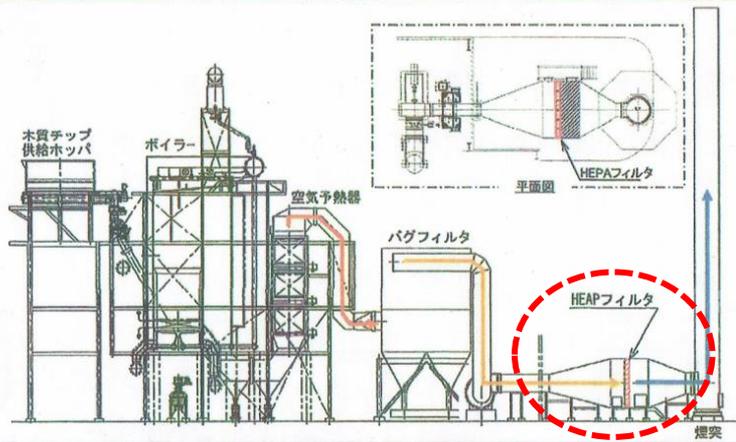
4.木質チップを調達するチップ工場。

工場名称	所在地	供給計画量 (t/年)	占有率 (%)	団体認定番号

田村市から開示された事業計画
燃料調達計画はのり弁状態、具体的な事業計画は一切不開示

「住民だまし」のHEPAフィルター設置疑惑

7-1. 安全安心対策 ～詳細説明:HEPAフィルタの設置



© 2018 MITSUBISHI HITACHI POWER SYSTEMS INDUSTRIES CO., LTD. All Rights Reserved.

集塵効率の高いバグフィルタ後段に、HEPAフィルタを設置することにより、さらに集塵効率を上昇させ、排ガスを更にクリーンな状態にして大気放出する計画です。

7

住民の懸念・不安に対して田村BEと田村市はHEPA(高性能)フィルターを設置すると説明。



原発構内の小型焼却炉では実績あるが大型焼却炉でHEPAフィルタの実績なし。



2018年5月25日議員説明会資料を情報開示で入手。

ちくりん舎、プラント技術者の会の技術者で分析。

開示されたのは設置図のみ。だが・**重大な疑惑が**。

- フィルター目詰まり時の交換機能がない。
- 数10ユニットのフィルターをどのように隙間(数 μ 以下)なく設置するか。
- フィルター上流側にファンがありピンホールなどで漏れの可能性。・・・等々

HEPAフィルター本来の性能を保証する設計がなされていない、虚偽の設備ではないかとの重大疑惑。

5

田村BEと田村市長宛てに公開質問状を提出

田村バイオマスエナジー(株)代表取締役 小檜山良一様
田村市長 本田仁一様

田村市バイオマス発電計

NPO

貴社において計画中の田村市バイオマス発電計画は、環境影響に対する不安の声が出だされております。これを通じて事業計画の情報開示を求めてまいりましたが、ほとんど明らかにされていません。つきましては、ここに公開質問状をお送りさせていただきます。また、書面にてご説明をお願いいたします。

1. 環境影響評価資料の開示

住民の合意を得るためには設備の性能を記載したバイオマス発電事業(宮城県)、大月バイオマス発電所(宮城県)は、インターネット上に、環境影響評価準備書(環境影響評価)を公開し、関係者の意見を聴取する。同レベルの開示ができないのであればその開示を求めたい。仙台北バイオマス発電事業 <https://www.city.sendai.jp/kankyochose/ku/re/biomass/houhousoyo.html> 大月バイオマス発電事業 http://www.pref.yamanashi.jp/taiki_sui/ase/ 黒崎バイオマス発電施設整備事業 <http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kankyou/> とりわけ重要なのは、定量的な設備仕様を記載した「排ガスに関する諸元に加えて放射性物質の放出量評価」であると考えます。

2. HEPA フィルター設置について

住民の懸念、不安がある中で、田村市と御社は住民の安全安心対策としてバグフィルターの後段に HEPA フィルターを設置するとしております。田村市への情報開示請求により入手した 2018 年 5 月 25 日開催の田村市議会議員向け説明会資料「7-1 安全安心対策~詳細説明: HEPA フィルターの設置」について以下ご回答願います。

(1) HEPA フィルターが目詰まりするとその都度停止してフィルタ・エレメントを交換する必要があります。

田村バイオマスエナジー(株)代表取締役 小檜山良一様
田村市長 本田仁一様

田村市バイオマス発電計画に関する公開質問状

2019年2月1日

大越町の環境を守る会 久住秀司
NPO 市民放射能監視センター(ちくりん舎) 青木一政
プラント技術者の会 筒井哲郎、川井康郎

貴社において計画中の田村市バイオマス発電計画については、地元大越町を中心に多くの住民から環境影響に対する不安の声が出だされております。これまで経産省資源エネルギー庁、福島県、田村市を通じて事業計画の情報開示を求めてまいりましたが、御社の了解が得られないとのことで事業計画がほとんど明らかにされていません。

つきましては、ここに公開質問状をお送りさせていただきます。以下の内容につきまして、2月15日までに書面にてご説明をお願いいたします。

2月15日田村BEは「発電所設計ノウハウ」「営業上の秘密」を理由に、一切の回答を拒否。

⇒虚偽説明による公金支出を問題にして訴訟を準備中。

今後の課題

今後の課題

分類	課題	説明
リネン吸着法による焼却施設周辺の環境汚染監視	新潟県三条市木質バイオマス発電周辺	1施設×10ポイント
	宮城県大崎市クリーンセンター(3箇所)での汚染廃試験焼却の監視と差止裁判支援	3施設×10ポイント
	宮城県仙南地域クリーンセンターでの汚染廃本格焼却の監視	1施設×10ポイント
	長野県東御市での木質バイオマス発電所周辺	1施設×15ポイント
福島県田村市木質バイオマス反対運動支援	情報開示請求と分析支援	燃料調達計画、地下水、揚水計画など。
	住民だましの「HEPAフィルター」設置疑惑の解明	プラントエンジニアの会と協同
	学習会・講演会、パンフレット作成による宣伝	
放射能ごみ焼却の全体像と問題点調査	木質バイオマス発電	全国の木質バイオマス発電計画・実施状況、問題点調査
	放射能ごみ焼却	各地の焼却炉飛灰濃度調査等
	熱処理(セシウム回収型炉)	実炉見学、学会報告調査
放射性微小ばいじんの健康影響についての調査	文献調査、学会参加など	
広報	リーフレット作成、学習会企画、ウェブサイトでの公開、インターネット放送での公開	
プラットフォームづくり	各地で活動するグループ、個人のネットワークを作る。	ばらまき追及団、福島連絡会と協同

本プロジェクト推進にあたり
ご協力いただいた方々にお礼申し上げます。

和田央子（放射能ごみ焼却を考えるふくしま連絡会）
鶴巻俊樹（みらいの生活を考える会・三条）
徳永達秀（飯山市常盤区バイオマス発電施設検討委員会）
久住秀司（大越町の環境を守る会）
山本正勝（大崎耕土を放射能汚染させない会）
長谷川進（放射能汚染廃棄物の焼却に反対する仙南の会）
深田和秀（ばらまき追及団）
浜田和則（ちくりん舎）
他 多くのみなさま

